

## 巻頭エッセイ

### 作業船の今後（展望）について

望月康生

西芝電機株式会社 取締役



春になるとメジロや鶯が鳴き、夏はセミの大合唱、そして9月になると一斉にコオロギや鈴虫が鳴き出し、ふと見ると狸が顔を出す。そんな自然に恵まれた神奈川県横須賀郊外の高台に居を移し20余年。通勤は辛いこともありましたが、「人工音の少なさ」と「海風」に魅入られ、ここを終の棲家と決めています（今のところ）。日ごろ溜まりがちなストレスを、解消とまでは行かなくとも和らげられるのが何より嬉しい。そして深夜になると、浦賀水道を通る船の汽笛が聞こえることも。大晦日などは、明けるとともに汽笛が一斉に響き、なんとも趣深い新年を迎えることができました。しかし、いつしか新年の汽笛は自粛され（横浜港に停泊中の汽笛が微かに聞こえますが）、狸はアライグマや台湾リスに取って代わられてしまいました。緩やかな変化を楽しむ生活を受け入れております。

のんびりした私生活の一方、ビジネスの世界は加速度的に変化を重ね（思えば良い変化ばかりではありませんでしたが）、気を緩める間もありません。変化への即応は当たり前、先取りしなくてはなりません。イノベーションだ！ 変革だ！ 余力を残さず実行だ！ 至極ごもっとも。でも、大事な事は変えてはいけませんよね。何を変え、何を変えてはいけないか。これが肝要だと感じております。

当社は昭和25年（1950年）に東京芝浦電気綱干工場を継承し分離独立、西芝電機として創業以来約70年間にわたり、船舶用電機システム分野において多くの製品を世に送り出してまいりました。クリーンなエネルギー資源として需要増が見込まれるLNG輸送船や海底資源探査のための海洋調査船、コンテナ船、フェリー、RORO、作業船など多くの船舶に当社製電機品を採用頂いております。

また、東芝グループとしての技術開発力を基盤とし、独自の高度な技術力と技能、豊富なノウハウを蓄積した、高機能・高品質のシステム・コンポーネント製品を提供しております。加えて、昨今の船舶の大型化に伴う大型回転機の需要に対応するために、2015年には大型回転機工場を新設し、よりお客様のニーズに対応できる生産体

制を構築いたしました。

しかし、ご存じの通り世界の海運業界も2020年問題や環境規制への対応が進んでいますが不透明感もぬぐえず、変化への即応が重要な課題となっております。

例えば2020年1月から船舶の燃料油中の硫黄分濃度の規制値が厳しくなり、燃料油をそのままでは使用できなくなります。規制強化への対応手段としては、(1)LNG（液化天然ガス）などの代替燃料の使用。(2)従来の燃料油を使い、排気ガス洗浄装置（スクラバー）の搭載。(3)従来よりも硫黄分の少ない燃料油（適合油）を使う等の対応方法がありますが、現時点ではまだ見通しがつかない状況にあります。

また、作業船業界においても、近年では海外の造船所で建造されるケースが増えており、国内においては優秀な技術者の相次ぐリタイア等により、作業船に対応できるエンジニア・作業員（職人）が激減しているのが実情です。2020年東京オリンピックを契機とする社会インフラ設備の建設に伴い、必要な作業船の需要、港湾設備の改修・整備等が急ピッチで進められることが望まれる中、国内造船所の操業も活性化されることを期待しております。

既に自動車業界は、内燃機関の販売中止の動きが具現化してきており、将来を見据え電動化が益々加速しています。作業船分野でも、既に稼働している浚渫兼油回収船の「海翔丸」、「白山」等には電気推進が採用されており、今後は蓄電池容量やコストの問題をクリアして環境に優しい電池推進船の導入、さらには新船型の開発・構築に向けた取り組みに貢献したいと考えています。

今後も作業船分野を始めとする船舶業界においてお客様にご満足頂けるソリューションを提供し、お客様と共に、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。海・陸エネルギーソリューションをリードするグローバルカンパニーとして、そして「お客さま」と「モノづくり」にトコトン拘って、たゆまぬ努力を続けて参る所存です。

東京通勤圏と見なされず人口減（台湾リス増）に悩む横須賀の自宅にて。